

再評価調査書

事業名	一級河川千里川総合治水対策特定河川事業	事業主体	大阪府
所在地	箕面市白島地先～千里川橋		
再評価理由	事業採択後10年を経過した時点で継続中		
事業の概要	目的	千里川は、沿川に人家が連担しており、かつ、時間雨量50ミリ非対応であることから、洪水による被害を防止し、安全で豊かな生活環境を築くため河川改修を進める。	
	内容	改修延長 約 7,300m 護岸工 約 7,300m 道路橋 6 橋 用地取得 約 29,000 m <sup>2</sup>	
		目的流量：190 m <sup>3</sup> /s（時間雨量50ミリ）：280 m <sup>3</sup> /s（100年確率）	
		治水安全度（着手前）：約140 m <sup>3</sup> /s 千里川橋	
	上位計画	淀川水系工事実施基本計画	
関連事業	下水道事業		
事業の進捗状況	経過	事業採択年度：S54	工事着手年度：S54 完成予定年度：21世紀初頭
	進捗状況	全体事業費： 約 61 億円 （内、用地費 約 25 億円） 整備延長 約 7,300 m	投資事業費： 約 48 億円 （内、用地費 約 19 億円） 整備済延長 約 6,960 m（95%）
	一連の整備効果発現	改修済箇所から氾濫防止が図れる。H15年度末を目標に、猪名川合流点から箕面市白島地先までの人家連担区間の時間雨量50ミリ対応を概成させる。	
	課題	特になし	

事業に関する諸状況を社会情勢の変化等地域の状況	災害発生時の影響（想定氾濫区域内）	① 浸水戸数：約 3,400 戸 ② 農地浸水面積：約 50 ha
	③ 重要な公共施設	学校、府道豊中亀岡路線、国道171号
	④ 災害弱者関連施設	老人ホーム
	⑤ その他	
	過去の災害実績	① 被害頻度：4回（H42～H9） ② 最大浸水戸数：約 7,440戸（最大 S42.7）
	③ 最大農地浸水面積	99 ha（最大 S42.7）
	④ 重要な公共施設等	学校、国道171号、国道176号、阪急宝塚線
	⑤ 災害弱者関連施設	老人ホーム
	⑥ その他	
	災害発生の危険度	① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合：約50% ② 着手前の治水安全度：約140 m <sup>3</sup> /s
①地域開発の状況	萱野中央特定土地区画整理事業（H10～H12）	
②地域の協力体制	H9災害を契機に地元からの要望等が高まっており、用地取得も地元の協力のもとに順調に進んでいる。	
③地域の事業と整合性の変化	特になし	
④その他	改修によって浸水被害も軽減してきており、また、河川改修と合わせて歩道設置等道路整備事業も進められているので改修区間での改修による評価は高い。	

費用 便 益 分 析	具 体 的 な 便 益 内 容			受 益 者	費用便益比	備 考	
	・費用便益分析	総便益 約 9,909 億円 (内訳) 浸水被害の軽減 (受益地において、水害によって社会経済活動が受ける被害が、河川事業によって減少する便益) 総費用 約 72 億円 (内訳) 建設費 (治水事業を実施するために要する費用) 維持管理費 (施設の維持管理に要する費用)			想定氾濫区域内住民	・ B/C = 138  (想定被害額は、治水経済調査要綱に基づき、一般資産、農産物、営業停止損失、公共土木施設等について算定)	治水経済マニュアル
事業 効果 の 定 性 的 評 価 等	大 項 目	小 項 目	効果の指標等	具 体 的 な 効 果 等		受 益 者	備 考
	安全・安心	浸水被害の軽減 ・生命、財産、都市機能	・想定氾濫区域面積	・約 137 ha ・約 9,100 人	想定氾濫区域内住民		
			・想定氾濫区域内人口				
		・想定氾濫区域内の重要な施設数  (交通網、ライフライン等)	・主 要 施 設： 学校 ・災害弱者施設： 老人ホーム ・交通網、ライフライン等：国道171号、国道176号等、阪急宝塚線	施設利用者			
		防災機能(地震・火災時等) ・緊急避難路、物資輸送路、延焼防止帯等		人家が連担する河川の両岸堤防が道路として守られることから、生活道路及び、緊急時の避難路、物資輸送路が確保される。	周辺住民		
	活力	特になし					
快適性 (生活環境)	親水空間の確保 (スポーツ・レクリエーション利用)		河川改修によって、河川両岸に水に近づき散歩ができる通路及び階段護岸が設置され、河川に対する親しみが增大することが期待できる。	周辺住民			
その他	特になし						
自然環境等への 影響と対策	河床は土等であることから、時間が経てば、自然とみお筋が形成されることが期待される。						
その他 特記すべき 事項							